

危険予測学習の進め方（例） — グループ走行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
<p>①交通状況の読み取り (個人～発表)</p>	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、運転者の状況、自転車の状況など) ・生徒に次のような状況を読み取らせる。 友人たちが横切っているのは、2車線の優先道路である。左右には塀などがあるため見通しが悪くなっている。友人の自転車は既に交差点に入っており、運転者は、2人を追って急いで交差点の中に入ろうとしている。
<p>②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)</p>	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・自転車運転者の心理、友人が横断する際の交通状況とこれからの状況、2車線の優先道路を通行する車両の運転者の心理をしっかりと考えさせる。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
<p>③回避方法の考察</p>	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
<p>④まとめ</p>	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「一時停止線で必ず止まる」「見通しが悪い四つ角は必ず止まる」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 自転車の運転者が、交差点であることをすっかり忘れていたり、前方の友人を見て、自分も「行ける」と勝手に判断してしまうことが、事故につながる。 このため、つられて行動せずに、自分の目で安全を確かめてから行動する。</p> <p>② 2車線の優先道路を走行する車両は、ほとんどの場合、一時停止の標識のある側が止まってくれるものと思い、スピードを落とさず走行する。 このため、優先道路に出る際は、必ず一時停止線で停止する。(教則第3章第2節3(2)参照)</p> <p>③ 友人が横断した時と、今とでは、交通の状況が変わっている可能性があることを考え、必ず見通しの悪い交差点では、一旦止まって状況をよく確認する。</p> <p>④ 「たぶん車は来ないだろう」と安易に予想するのではなく、常に「来ているかもしれない」と予想して通行することが、自分の命を守ることに繋がる。</p>
-------------------	---